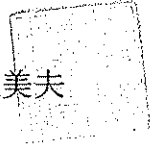


平成19年4月23日

国土交通省道路局長 様

羅臼町長 脇

紀美夫



中期的な計画の作成にあたっての意見提出について（報告）

平成19年4月2日付国道企第114号で依頼のありました標記につきまして、別紙のとおり報告いたしますのでよろしくお取り計らい願います。

「道路特定財源の見直しに関する具体策」に係る意見提出

重点化を進める上で特に優先度が高い政策

当町がこの地で安心して生活・経済活動を行っていくためには、地域医療体制の確立が最優先であると考えているが、急速な高齢化に対応した町単独での高度医療施設は財政的にも整えられる状況ではない。

町民の生命を守る高度医療施設への移送を考えると、一般国道335号は、隣接する標津町へ通じる唯一の道路であり、地震や津波、地吹雪による冬期の視程障害など、通行止めとなった場合は孤立集落となることから、災害等による交通規制を抑制できるよう、交通アクセスの更なる充実は不可欠であります。

とりわけ近年、医師・看護師不足を原因に救急車での患者輸送が増加していることから、道路整備の充実が地域住民の命を守る一本の綱となっているといっても過言ではない状況であります。

本路線には大型車両の交差が困難な狭小幅員の箇所や急カーブの箇所もあり、確実な代替路の確保とともに交通安全上急を要する箇所等について、早期整備が必要である。

さらに、平成17年7月の知床世界遺産登録により、道内外からの観光客が増加している状況の中、観光ルートとして確立するためには、観光客の利便性向上の観点から道内主要都市のアクセス強化、冬期でも安全で安心して移動できる交通環境の改善が必要である。

- ・ R335 道路線形の改良（急カーブ）
- ・ R335 越波防止
- ・ R335 高規格道路の羅臼町までの延長
- ・ R335 峯浜～春日間への追い越し車線の新設
- ・ R335 シェルター内のロードヒーティングの導入

その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

根室・釧路管内をはじめとする道東と、これと接する道北は豊かな自然を有し、多種多様な野生生物群が存在する。

これらの地理的中核にある知床半島は、原生の自然環境を残し、特に大型の希少野生生物が棲息する優良な環境が保たれており、世界的に見ても希少価値が高く、今後「自然保護・保全意識の啓発の場」としての役割を高めていくことを考えている。

このような視点から、知床を取り囲む「国道335号・334号・244号」及び「道道知床公園羅臼線」などの道路ネットワークの有効利用が可能であるとともにも自然環境との共生や調和を重視し、先進的な道路基盤整理を行っていただきたい。

- ・ 電線の地中化
- ・ 道路及び道路附帯施設への自然素材の積極的導入
- ・ ビューポイントにおける駐車帯の整備